No.56
2013. 9. 1

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

CONTENTS

■気仙沼訪問 ……1～2
■地球の木とフェアトレード ……3
■CHANGEを求める若者たち ……4
■雨季のラオスから ……4
■翻訳は新たな挑戦 ……5
■効果は持続可能！！ ……6
■私のおすすめ ……6
■グローバルeye ……7
■「ラオス森の絵本」制作にむけて ……7
■活動日誌 ……7
■INFORMATION ……8

気仙沼訪問

忘れないでほしい！

撤去が決まった船

副理事長　堀　千鶴

6月の末、地球の木がサポートし見守っている「Tree Seed」が特定非営利活動法人格を取得して1年が経過し、総会が開かれました。私たちはその総会に参加し、また今回は震災から2年が過ぎた気仙沼の街を見てこようと計画をたてました。

■魚を運ぶトラックと資材搬入のトラック

気仙沼港の向いにある大島へ渡る為の船着き場とその周辺は、津波の被害で地盤が沈下、満潮時には冠水し、近寄れませんでしたが、今では道の部分はかなりの盛り土がされ、通行可能になっていました。船の着岸する場所はまだ壊れた桟橋がそのままですが、横に新たな桟橋が建設されていました。周りには仮設の商店ができ、休日には大型バスが何台も来るそうです。新鮮な魚を食べられる店も多くあります。また魚が揚がる港も随分と船が多くなったように感じました。カツオが水揚げされ、冷蔵庫からトラックへ大型クレーンで積み込まれている様子も見る事ができました。被害を受けた建物が無くなり、まだまだ荒地と言ったところですが、着実に漁港として復活しつつあります。魚を運ぶトラックと、沈下した土地のかさ上げの為の資材搬入のトラックで土ぼこりが舞い上がり、見通しが悪くなっていました。

■撮影禁止の「船」

唐桑という所では、大きな船が街の中まで打ち上げられ、震災を忘れないようにする為のモニュメントとして残そうか、それとも取り壊そうかと話題になっていました。船は随分と錆びつき、船の後方にはつぶれた車があります。周りには綱がはられ「撮影禁止」の札がかけられていました。以前は多くの人がここに車を止め写真を撮っていました。どうして禁止されたのかと考えると、心ないポーズで楽しく写真を撮る人たちが多くなったのではないでしょうか。地元の人からすれば、いたたまれない事でしょう。周囲は建物の基礎だったコンクリートの間に雑草が花をつけており、年月の移ろいを感じました。

「東日本大震災　復興支援まつり」

日　時：11月9日(土) 11:00～14:30
会　場：山下公園（横浜市中区）
主　催：東日本大震災　復興支援まつり実行委員会

地球の木は、気仙沼の「Tree Seed」と一緒にこのまつりに参加します。　ブースには、「Tree Seed」のメンバーも駆けつけ、気仙沼名物「サメの心臓の串焼き」「ふかひれスープ」や気仙沼の物産を販売します。地球の木フェアトレードグッズもあります。
皆さまどうぞお越しください。当日のお手伝いも大歓迎です。

■発行 特定非営利活動法人 地球の木 理事会　■発行責任 丸谷士都子　■編集 広報部　■事務局 〒231-0032 横浜市中区不老町1-3-3フェニックス関内2F
■TEL 045-228-1575　■FAX 045-228-1578　■E-Mail:chikyunoki@e-tree.jp　■http://e-tree.jp/

Tree Seedの入口

■考えさせられる支援のあり方

市役所にも行き、復旧・復興について危機管理課の若い男性職員から話を聞くこともできました。「復興の状況はいかがですか」との問いに、「みなさんにはどのように見えますか。復興が遅れているとか、進んだとか何を根拠に言うのですか」と怒りの表情がうかがえました。何も無かった所に街を作るならまだ楽です。みんなの想いのあるところを切り捨ててでも、新たな街を計画する大変さを彼の言葉から感じることができました。その彼の話の勢いにメモをとる事もできず、うなずくしかありませんでした。

震災直後から地域の人たちと共に救援活動をしてきた彼だからの言葉だと思いました。3月11日彼は市役所で仕事をしていた時に地震にあい、被災状況を確認するためにすぐに街へ向かったそうです。近所同士で助け合う人々を手伝い、津波を考えできるだけ高台に逃げるように声をかけて回ったとか。しかし、「多くの人は近所の人を助けて、自分たちは逃げ遅れてしまった。ニュース等ではその中、生還した一部の人が持てはやされているが、あちこちで同じ事が起こり、犠牲になった人がたくさんいた事を忘れないで欲しい」、そして「いつの間にか被害を受けた人とそうでないあちら側の人になってしまった。あんなに日本の事としてこの震災を捉えていこうと言っていたはずなのに。私たちは被害者ではない。同じ日本人だ」と話してくれました。

また「ボランティアに来てくださる方々には本当に感謝しています。これからもお願いいたします。しかし被災地の為に何かをしに来るのではなく、これが役に立つのではないかと考えた時、まずは自分が住んでいる所でやってみてください。そこで喜ばれ事業が成功したら、ノウハウを教えに来てください。決して遅くはありません」、そして「助成金が無くなったから辞めます、今後は自分たちでやってというような支援は止めてください」とも言われました。これらの言葉がいつまでも私の心の中に残り、支援のあり方について考える良い機会となりました。

話を聞いた気仙沼市職員(右)と筆者

■計り知れない復旧・復興事業の中で

土地基盤整備、防災対策、産業と雇用、保健福祉、地域コミュニティなど、市役所はあらゆる分野の事業に取り組まなければなりません。見た目だけでも、復旧・復興の苦労は計り知れません。行政でできる事、個人で頑張るしかない事が混在して、「問題」とだけ表示され置き去りにされてしまう事も知りました。

そのような中、NPOの活動は大きな期待を人々に与えています。ボランティアやNPOなんて何？と思っていた気仙沼の多くの人達。震災前は近所の助け合いで事が足りていました。しかし仮設住宅に引越したり、親戚を頼りに多くの人々が別々の所へ行ってしまいました。こんな時活躍したのが地元の若者たちが集まった「IVY気仙沼」。泥出し作業をしたり、朝市を開いて野菜などを販売しました。「Tree Seed」となり、活動は継続し、地域の方々とも信頼関係を築き、少しずつですが自立の道を探って来ました

地球の木のグッズを販売する

■「Tree Seed」確実なる歩み

現在「Tree Seed」が行っている事業は、気仙沼で初めての介護予防の為に地域の皆さんが集まれる場づくり。バス停から2～3分、病院も近く、通行人が多い立地にある「Tree Seed」の事務所には、保健所の許可がとれた台所があります。一緒に昼食を作り、スタッフが配達するお弁当もあり、体操や手芸、カラオケ、季節のお出かけ等プログラムは多彩で、少しずつ参加者が増えています。

また、中心地から離れた市内で一番大きな仮設住宅では、健康管理をサポートしながらのお茶のみ会や手芸教室など、こちらもスタッフが利用者の事を考え対応しています。人気は上々です。また皆さんが遠くへ買い物に行かなくても済むように、午前中の拠点を利用し、食料品をはじめ様々な物品の販売をしています。お年寄りの安否確認をしているので住人の方々にも信頼されています。

総会に参加し、報告書、事業計画を見ると、「Tree Seed」が確実に実績を積み大きくなって来ている事を感じます。でもNPOとしての細かな事はまだまだなので、この事をサポートしていけるのは、経験を積んでいる地球の木だからこそではないかと考えています。

地球の木とフェアトレード

買い物をする場合、同じようなものなら誰だって安い方がいい。ただその価格が児童労働や搾取など、誰かの犠牲の上に成り立っているものだとしたら？

誰がどのような状況で作り、どのように運ばれてきたものかがわかる商品は買う側にとって、安心でき、そして買い続けることで、生産者が安定した収入を得ることができる。その結果、品質の良いものが消費者に届くという良いサイクルが生まれる。

私たちの選択で、社会を変える方法のひとつが「フェアトレード」です。

ところでフェアトレードって？

フェア（公正）な貿易のこと。アジア、アフリカ、中南米の発展途上国の人たちが作ったものを，中間搾取をなくし継続的に適正な価格で買うことにより、立場の弱い生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易の仕組みを言う。フェアトレードの最大の特徴としては、生産者との「顔の見える関係」があげられ、また有機栽培や天然原料の使用を推奨し、途上国の環境保護にも役立つ。

その歴史は？

起源は1940年代，米国のある団体がプエルトリコの女性が作ったものを、教会で販売したことに始まる。続いてヨーロッパ（特にイギリス、オランダ）で、継続的に途上国と農産物や手工芸品などを取引し、広まっていった。当時は「オルタナティブ（別のやり方の、もう一つの）トレード」と呼ばれ、先進国側のNGOが途上国から、織物や手工芸品を持ち帰り、教会やチャリティーショップと言われる店舗で販売した。チャリティとしてスタートしたが、生産者の側から「援助ではなく、貿易を」と提案され、公正貿易（フェアトレード）へと転換してきた。

どのような製品があるの？

バナナ、コーヒー、砂糖、綿花、チョコレート、手工芸品、衣服など

フェアトレード先進国イギリスでは

イギリスで、Tシャツを１枚１ポンドで販売した会社があった。余りの安さに説明を求めたところ、生産者が児童労働をさせていたことがわかり、国中で不買運動がおきた。イギリス人は、児童労働をさせてまで安さを追求することを心から許さない。また長い間の植民地支配の歴史があり、旧植民地地域が今も貧困状態にあることに対し、多くの国民の償いの気持ちが、フェアトレード商品を選ぶ動機のひとつになると考えられている。

日本のフェアトレードは？

日本では1980年代後半から始まり、その歴史は浅い。1989年からオルター・トレード・ジャパンがフィリピンのバナナを「民衆交易」として主に生協内で広げた。90年代には、各地でフェアトレードショップができたが、普及はあまり進んでいない。2008年の調査によると、フェアトレードの認知率は、最も高いイギリスが82パーセントに対し日本は17.6パーセント。また1人当たりの年間売上高も、最高のスイスが3,670円、日本はわずか11円である。

地球の木のフェアトレードは？

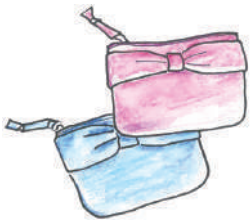
現地の暮らしや伝統、文化を尊重し、また環境に配慮しながら製品作りをおこなうのもフェアトレードの特徴のひとつ。アジアには、長い歴史を持つ、素晴らしい伝統文化があり、中でもカンボジア、ラオスでは何代にもわたって、母から娘に引き継がれてきた手織りや刺繍などの「手仕事」がある。ぬくもりのある「手仕事」がつなぐ現地の生産者の人たちと日本の私たち。地球の木では、生産者の人たちも、購入する側の私たちも、双方が幸せな気持ちになれるようにフェアトレード製品を「幸せ分かち合いクラフト」と名付けている。

皆さんも地球の木の「幸せ分かち合いクラフト」を応援してください。

（会報作成チーム 浜辺 美英子・クラフトチーム 筒井 由紀子）

地球の木のフェアトレード商品

アジアのコーヒー



カンボジアシルクのポーチ

カンボジアシルクのオリジナルバッグ

ラオス　モン族の手刺繍小物

秋のデポー展示会

下記のデポーで展示会を行います。
地球の木カレンダーも販売いたします。
お近くのデポーへおこしください。

- 緑園デポー
  9月19日(木)～20日(金)
  （カレンダーは予約のみ）
- 霧が丘デポー
  11月22日(金)～23日(土)
- 東寺尾デポー
  11月30日(土)
- つなしまデポー
  12月 6日(金)～7日(土)
- 東戸塚デポー
  12月14日(土)

from Cambodia

7月28日、カンボジアで総選挙がおこなわれた。私たちが訪問した7月初旬はまさに、選挙運動の真っ最中。国連カンボジア暫定行政機構（UNTAC）のもとで総選挙が実施されたのは1993年で、それから20年。与党人民党をひきいるフンセン首相は、第2首相の時代も含め、28年間、首相の座にいることになる。軍や警察を掌握し、ほぼ「独裁体制」といってもいいだろう。

プノンペンの街中を見渡しても与党の看板と旗ばかりのようにしか思えない。たまに見かける「太陽のマーク」は、サム・レンシー氏率いる第一野党救国党である。車の運転手がごくたまにしか見かけない野党の看板を見つけ、「彼はグッドマン。サム・レンシーだから（をもじって？）サンライズ党（夜明け）と呼んでいる」と話していた。かつて、人前で政治的な話、特に与党への批判は極力控えた方がいいと言われたことを思い出し、時代が少し変わったような感じがした。今もカンボジアの大手メディア、地方のラジオなどはすべて与党の手中にある。しかし、選挙監視を続けるカンボジア市民フォーラムの事務局長山田裕史氏は「都市部の若者たちを中心に公然と野党の支持の動きが拡大し、他の年齢層や地方にも広まったのは大きな変化だ」（7月29日朝日新聞朝刊より）という。圧倒的な資金力で、与党が派手な選挙運動を繰り広げる。

一方、英語に堪能で、海外の情報に自由に接している若者たちが、フェイスブックなどで多角的な情報交換をしながら、「チェインジ（変化）」を求めて自主的に活動をしているという話も聞いた。結果は、与党の勝利だったが、野党は改選前の29議席から55議席に勢力を大きく伸ばしたという。地球の木のプログラムを手伝ってくれているタリーさんやディナーくんも同じく若い世代の人たちだ。知識と情報に加え、正義感も持ち合わせた若者たち。カンボジアの明るい未来が感じられる。

7月初旬、カンボジアを訪れました。タケオの訓練センターでは、スレイリスとソバンの他に新入生が1人増え、地球の木の注文に対して71枚のスカーフが出来上がっていました。どれ一つ同じものはなく、いろいろと工夫を凝らして織ったもので、色の組み合わせにもセンスの良いものが多くなってきました。地球の木の「出番」はそろそろ終わりのようです。あとは手織りの良さである「作った人の思い」やぬくもりをどう伝え、大切に売っていくかが課題です。農村の少女たちは、村にいても、都会の工場へ行っても単なる安価な労働力としか扱われないことがほとんどです。センターには、ぜひ、もっと自信を持って、いいものを作り、そして生徒たちの自尊心を高めるためにがんばってほしいと思います。地球の木では、引き続き、このスカーフを通して、日本の人たちとセンターの少女たちをつないでいければと思っています。

ソバンとスレイリス

（カンボジアチーム　筒井由紀子）

from Laos

ラオスの雨季は長い。4月下旬頃から雨が降り始め、10月頃まで続く。今は雨季真っただ中で、このところずっと雨の日が続いている。長い雨が続くと「村の人たち、農作物は大丈夫だろうか」と心配になる。2011年の東南アジアの水害では、JVCの対象村でも洪水で農地が被害に遭い、その年は食糧不足に陥った。案の定、今日は現場のスタッフから「橋が崩落して村に行けそうにない」と連絡があった。雨季の活動は本当に大変だ。

とはいえ、活動は継続的に行われている。上の写真は、先週訪れたアサポン郡の対象村において、JVCの指導するSRI（幼苗一本植）を採用して村人が田植えをした田んぼである。畔を挟んで左側の方が複数の苗を一株としているため良く育っているように見えるが、右側のSRIを採用して植えた田んぼの稲の方が、一本一本の苗にいき渡る養分が多いため、数ヵ月後には緑々しい田んぼになるはずだ。実はこの写真を撮る前に、田んぼを見せてくれた農家のお父さんと話していたJVCスタッフが「記念に写真を撮りましょう」とお父さんと並んで写真を撮った。私が「この田植えをしたのは誰ですか」と聞いたところ「かあちゃんと息子だよ」との返答。ならばと田植えを頑張ったお母さんと息子さんを写真におさめることにした。ラオスの文化では村の女性は気軽に他の男性と会話をしないこと、女性は難しい話ができない、という村の男性の認識もあり、いつもJVCスタッフと話をするのは自然と男性が多くなってしまう。改めて、村の女性を巻き込んだ活動が重要だと感じた。

先日、ピン郡のある村からスタッフへ一本の電話があった。「企業と郡役人が来て、村の木を切らせて欲しいと言っているが、どうしたら良いか」と村人は話す。企業は農林省からの許可書を持って郡行政官とこの村へ来たわけだが、村人がその許可書に書いてある内容を理解することは難しくJVCの助けを求めてきた。村人が見せてくれた許可書をスタッフが確認したところ、伐採の許可がでた村はその村ではなく隣村であったため、JVCは伐採を容認する必要はないことを助言した。しかし村人がこれを郡行政官に訴えると「この村の許可は今申請中で、どうせすぐに許可が下りる」と言われたそうだ。結局、約300本の木を伐採するのと引き換えに、約3万7千円、牛一匹のご馳走を振る舞うという交渉条件に、村人は伐採を容認せざるを得なかった。土地は国のものであり、人びとに土地の所有権が認められないラオスでは、このように村人が泣き寝いりせざる得ない状況が後を立たない。このような不可抗力の中でJVCができることは何か。こういった問題を国や他の援助機関、世論に伝え、弱い立場の人々が守られる政策を提案し、訴えていくことではないかと思う。

伐採の様子

（JVCラオス事務所　林　真理子）

from Nepal

ネパールチームでは、支援地で発行している季刊誌「ロシラハール」を読む会を毎月第一月曜日に行っています。翻訳を引き受け、奮闘してくれている菅野冴花さんから一文を寄せていただきました。

地球の木が3月に開催した参加型開発について学ぶワークショップに参加したご縁から、ロシラハールの翻訳のお手伝いをさせていただいております。

私は、青年海外協力隊の村落開発普及員として、2年間ネパールで活動してきました。主な活動としては、ネパールの農村部に住む女性たちのために、識字教室や、収入向上につながるような養蜂・きのこ栽培・野菜栽培等を学ぶ教室を開く活動をしていました。長い山道を歩いて村へ行き、女性たちと世間話。出稼ぎで海外にいるだんなさんのこと、子どもたちの進学のこと、トウモロコシをいつ植えるか、「相手を見つけてあげるから、早くネパールで結婚しなさい」というお決まりの話題……そんなおしゃべりをする中から、アイディアを拾い、活動につなげていくという日々でした。

現地でのおしゃべりはもちろんネパール語だったのですが、私にとって「ロシラハール」の翻訳は新たな挑戦でした。というのも、私のネパール語自体が、そういったネパールの人々とのおしゃべりで鍛えられたもの。単語も、文字で覚えるより、音で覚えているものが多くありました。そのため、文章で書かれたネパール語を読み解き、日本語で説明することは、簡単なことではありませんでした。お恥ずかしながら、ネパールに住む友人に、教えてもらうこともありました。けれども、そのおかげにより、今でも新たなネパールの知識や、言葉の表現を知ることができることをうれしく感じています。

さらに、そのように知識をつなげあわせながら、「ロシラハール」の翻訳を行うことで、現地の本当の声を伝えたいと考えております。協力隊としてネパールで援助活動に関わる中で疑問に感じたのが、援助を実施する側と実際に援助を行う現場との考えの差でした。実際に、村の要求に応じて援助団体が作った井戸や、水道も、作った場所が悪かったり、メンテナンス指導がされないままで、結局、壊れて使われなくなったというケースを見たことがあります。これは、実施する側と現場のお互いの思いが一方通行だったためです。実際の現場からは予想できない問題もでてくるでしょう。先日翻訳した「ロシラハール」にも、子どもたちが学校に来られないこととして意外な理由も書かれていました。例えば、ネパールでは生理をけがれと考える習慣があります。強くその習慣が残るところでは、初経が来てから数日間は娘を家の部屋の外に出さないという地域もあります。また、生理中に学校に行った際、トイレにナプキンを捨てる場所がないことも、彼女たちにとって大きな問題になるようで、これらも子どもたちが学校に来なくなる一つの理由になるそうです。

そのような現地の状況をきちんと伝えることで、両想いの活動ができるようお手伝いが出来たらと考えております。

（翻訳ボランティア　菅野　冴花）

村の長老からティカ（赤い粉）で祝福を受ける

ネパールスタディツアー

効果は 持続可能!!

地球の木は、1998年からネパールの支援地を訪れるスタディツアーをほぼ毎年実施してきた。「スタディツアーが人生の指針を示してくれた」「ネパールの子どもたちの置かれている状況を目の当たりにして、自分は何てちっぽけなことを悩んでいたのだろう、と気づいた」「スタディツアーに参加して、自分も社会に貢献できる仕事をしようと思った」という若者たち。「スタディツアーに行って、自分のやるべきことが見えてきた」と福祉の仕事を始めた中高年の参加者たち。現地の人々や参加者同士の様々な出会いが、人生に違いをつくったという感想を耳にする。

2010年のネパール・スタディツアーに参加したことで障がい者支援活動の方向性を見出したと言っていたSさんとMさんから、「お蔭さまで、活動にすごい進展があったので、一緒にお祝いしてほしい」と夕食のお誘いをいただいた。2人が運営に関わっている障がい者支援グループが初めて助成金をもらい、福祉関係の新聞にも取り上げられる、とSさんの声が弾んでいる。

2人は、「幸せ分かち合いムーブメント」の実践地域を訪れた。停年退職したばかりのMさんの固かった表情が、日に日に緩んで、何かから解き放たれたように、とても素敵な笑顔になっていたのを思い出す。ドッコという籠に一杯の野菜を背負い4時間かかって山の頂上の村から運んできた少女たちと出会って、涙していた。

ツアーの間、ある時は、満天の星空を仰ぎながら、ある時は、水牛や山羊がのんびりと草を食む、石ころだらけの道を歩きながら、2人の間に活動を展開するための青写真が完成していったらしい。

1軒だった活動の家が、3軒に増え、卓球台で遊ぶ中学生の姿も見えた。障がいをもった子どもたちの支援だけでなく、補習が必要な子どもたちの勉強もみているという。Sさんが指導している「さき織」の製品もそこここに展示してあり、大勢の人がこのたまり場を利用していることがわかる。

ワインと心のこもったお料理に舌鼓を打ち、気が付いたら4時間もおしゃべりをしていた。帰り際にそっと聞いてみた。「スタディツアーに参加してどうだった？」

持家を３軒提供するほかに、高齢者の送迎ボランティアや食事サービスなども始めたというSさんは言う。スタディツアーは、その後の人生にも、生き方にも、そして、活動にも大きな影響を投げかけてくれ、それが今も持続している、と。

（ネパールチーム　乳井　京子）

ドッコを背負った少女

今年度のネパールスタディツアーは、2014年2月に実施予定です。詳細は、ちらしをご覧ください。

私のおすすめ

「私のスカート」福音館書店
（月刊“たくさんのふしぎ”から）
文・写真：安井清子
絵：西山晶

絵本はいい。まず早く読めて目が楽しい。でもこの絵本は内容も充実していて、布や手仕事が好きな人の期待に大いに応えてくれる。

ラオスのモン族に伝わる赤と藍色の重厚な感じのプリーツスカート。ある日、主人公の小学校２年生の女の子マイは、お母さんから「今度のお正月に間に合うように新しいスカートを作ってあげようね」と言われる。それは、4月に麻の種をまくところから始まるのだけれど、その後の全過程、麻の茎の皮が糸になり布になり、次から次へと、煮たり干したり、描かれたり染められたり、縫われたりしてスカートになっていくまでのあらましが、とても分かり易くていねいに表されている。おばあちゃん、お父さんの手も借りるそれは、家族工房のようだし、糸くり機など代々使われてきたいろいろな素朴な装置もとても興味深い。兄弟や家畜と一緒に働いたり遊んだりの、ラオスの子どもたちの暮らしのようすも温かく描かれている。

私がこの本と出合ったのはずいぶん前だが、近年著者の安井さんとお会いして、ますますこの本が好きになった。「絵を描いている西山さんも、きっと何度も現地に行っているのでしょうね」と言ったら、「いいえ、一度も。全部私が撮ってきた写真やビデオからなのよ」と言う。びっくりした。二人の伝えたい気持ちが見事に結実していると思う。

（会報作成チーム　斎藤　和子）

防災の日に思う

9月1日は防災の日。1923年同日に起こった関東大震災では、190万人が被災し、死者・行方不明者合わせて10万人以上となった。90年経った今も忘れられない日となっている。さらに、消し去ってはならないできごとは、デマによる朝鮮人の虐殺である。

当時神奈川県に住んでいた朝鮮人は、熱海線（現在の東海道線の一部）などの鉄道工事、多摩川などの砂利採取、鶴見潮田町の工場街、横浜中村町の沖仲仕などの労働を担っており、数千人が暮らしていた。大震災が起こって間もなく、「朝鮮人が井戸に毒を投げ入れた」「武器を持って襲撃してくる」などの噂が流れ始めた。地球の木事務所がある辺りであるという。あらゆる場所で武装した自警団が組織され、朝鮮人とわかれば虐殺が行われた。

当時、テレビはもちろんラジオもない。関東の新聞社も被災。地方の記者が現場取材したものがデマも含めて地方紙の記事になった。被害がひどかった横浜市中区と南区の小学校の子どもたちの作文から当時の様子を読み取ることができる。自警団の結成や虐殺の様子も生々しく書かれている。

現在の日本を見てみよう。韓流ブームに沸いたコリアンタウン新大久保で「ヘイトスピーチ」やデモが繰り広げられている。在日韓国・朝鮮人に対して、耳をふさぎたくなるような、おどろおどろしい差別表現が繰り返し叫ばれている。特に昨年夏以来、領土問題に端を発した日韓関係の悪化に伴い激しさが増している。大阪のコリアンタウン鶴橋でも同様に、14歳の女子中学生が街頭で絶叫。『みなさんが憎くて憎くてたまらないです』『いつまでも調子に乗っとったら、南京大虐殺じゃなくて、鶴橋大虐殺を実行しますよ』と宣言する様子がインターネットで公開された。これが各国語に翻訳され、全世界へ伝わったという。繰り返される差別行為に、海外からの批判も相次いでいる。

90年前と比べ、現在はあらゆるメディアが氾濫している。インターネットを通して差別意識を植え付けられる若い世代も多いようだ。正しい判断をするためには、一方的に流れてくるニュースに惑わされず、複数の情報源から情報を得て吟味することが大切であろう。そして地域に住む外国籍の隣人を知り、理解を深め、共によりよい社会を築いていく努力が必要だ。地球の木が参加している「あーすフェスタかながわ」は、まさにその場である。多様な背景を持つ人びとが集い、企画を立て、実行する過程で、時には白熱した議論になることもあるが、違いを乗り越え、理解し合うことができる。多文化共生をめざす神奈川で二度と過去の悲惨なできごとを繰り返さないために。

（理事長　丸谷　士都子）

参考文献：「神奈川の韓国・朝鮮人　自治体現場からの提言」（1984年公人社）神奈川県自治総合研究センター「国際化に対応した地域社会のあり方」研究チーム

「ラオス森の絵本」制作にむけて

田島征三さんのこのごろ

瀬戸内国際芸術祭 田島征三作品「青空水族館」香川県高松市　大島
秋季：2013年10月5日（土）～11月4日（月）

「ラオスで出会ったおもしろい人」

田島征三さんが昨年11月にラオスを訪問した時、「おもしろい人」との出会いがあったそうです。その人の名前はルートマニーさん。ラオスで森の中から見つけてきた不思議な形の木の枝や木の実を使った人形劇「カオボン」を作り出した人です。7月3日、これまで田島さんのラオス訪問時に通訳を務めてくださった安井清子さんと一緒に田島征三さんの絵本への協力をお願いするためにビエンチャンにあるルートマニーさんのお宅を訪ねました。「環境の勉強のためとか、何かのためにやっているわけではないんだ。ただ、好きだから……」というお宅の庭には、不思議なオブジェがいっぱい。私が森で見てもただの木の実や枝なのだろうけど、ルートマニーさんの目に留まり、こうやって持ち帰り、並べてみると確かに「何か」に見える。ラオスの森の中には、精霊が住んでいると信じているラオスの人だからこそ、その「何か」が見えるのでしょうか。日本でも木の実を拾っては作品を作っている田島さんとどんなコラボレーションになるのか、今からとても楽しみです。

ルートマニーさんと作品

（ラオス森の絵本実行委員会　筒井　由紀子）

活 動 日 誌（6月～8月抜粋）

6月 1日	復興支援総会に出席（オルタ館）
7日	YNN（横浜NGO連絡会）総会に出席
10日	ロシラハールを読む会（ネパールチーム）
10~11日	展示会（霧が丘デポー）
15日	出前講座（鎌倉女学院高校）
	展示会（東戸塚デポー）
18日	第1回国内事業ミーティング
20~21日	気仙沼訪問
24日	第1回理事会
28日	ボランティアディ
7月2~8日	カンボジア・ラオス訪問
8日	ロシラハールを読む会（ネパールチーム）
13日	かながわ生き活き生活基金理事会に出席
	出前講座（真光寺中学校）
18日	第2回国内事業ミーティング
30日	第1回海外事業ミーティング
31日	出前講座（隼人高校）
8月 8日	出前講座（エッコロひろば・鎌倉）
12~21日	ネパール調査

地球の木カレンダー2014「心のお陽さま」

写　真：安田　菜津紀
サイズ：28×38.5cm（使用時58×38.5cm）
製作元：日本国際ボランティアセンター
価　格：1,500円

お友だちやお世話になった方へのプレゼントにも最適です。メッセージカードを付けて地球の木よりお届けします。

フォーラムアソシエ文化祭

日　時：9月28日(土) 10：30～14：30
場　所：オルタ館（JR/横浜市営地下鉄「新横浜」7分）

フォーラムアソシエの講座が体験できます。地球の木はフェアトレードクラフトの販売とクイズをします。

ネパール調査報告会

「幸せ分かち合いムーブメント」は、ロシ川のほとりの地域にさざ波のように、広がりを見せてきました。
新しい支援地では、どんな活動が展開されているのでしょう？ほっかほかのニュースを聞きに来てね。

日　時：9月28日(土) 10:00～12:00
場　所：平沼記念レストハウス2階(JR「関内」南口4分)
資料代：300円

報告会の後、近くのネパールレストラン「スンガバ」でランチ(要申込み)

第9回市民活動センターまつり

日　時：9月29日(日) 10：00～15：30
場　所：ひらつか市民活動センター（JR「平塚」南口2分）
地球の木は、フェアトレードのクラフト販売と活動紹介をします。

グローバルフェスタ 2013

日　時：10月5日(土)～6日(日) 10：00～17：00
場　所：日比谷公園

日本で一番大きなNGOのお祭りです。毎年好評の「ちぢみ」とフェアトレードクラフトの販売を行います。

かまくら国際交流フェスティバル

日　時：10月6日(日) 10：00～15：00
場　所：高徳院（江ノ電「長谷」7分）

鎌倉大仏で毎年開催される国際交流まつりです。地球の木は温かいラオスコーヒーとフェアトレードクラフトの販売をいたします。

よこはま国際フェスタ2013

日　時：10月19日(土)～20日(日) 10：30～16：00
場　所：象の鼻パーク（みなとみらい線「日本大通り」5分）

横浜港の潮風が心地よい公園です。フェアトレードクラフトの販売と活動紹介をいたします。

大黒まつり

日　時：10月31日(木)～11月1日(金)
11：00～15：00
場　所：孝道山（JR「東神奈川」10分、東急東横線「東白楽」3分）

近隣の商店街も出店します。地球の木は「ちぢみ」の販売をします。

東日本大震災　復興まつり

日　時：11月9日(土) 11:00～14:30
会　場：山下公園（みなとみらい線「元町・中華街」出口4　3分）
主　催：東日本大震災　復興支援まつり実行委員会
内　容：復興支援活動に関する展示、復興支援を目的とした模擬店（食販・物販など）

販売や支援カンパを募るだけではなく、宮城・福島で暮らし、生産し、活動する市民と、神奈川で暮らす市民が交流し、新しい連帯を作り、未来を考えるまつりです。

オルタ館フェスタ

日　時：11月16日（土）
場　所：オルタ館（JR/横浜市営地下鉄「新横浜」7分）

オルタ館で活動している団体が出展しています。
地球の木はクラフトの販売をします。

心を揺さぶるネパールスタディツアー

雄大な自然に抱かれた、「幸せ分かち合いムーブメント」の実践村、素朴な人々との交流・ホームステイは、頑張るあなたへのギフト。

日　時：2月11日～19日
参加費：22万円(予定)
説明会：11月30日（土）・12月7日(日)
11:00～12:00　地球の木事務所
学習会：1月と2月に各1回

編集後記

外は、べったりとセミの声。それでも、今日は時たまリボン状に涼風が吹き抜けていく。夏も終わりだなあ。大の字になって昼寝する夫を横目に編集後記を絞り出す私。ムム～～編集香気か？みんなの知恵を集めて、今号も何とかできました。どうかしら？読んで下さいね。（K.S）

地球の木は「認定NPO法人」格を取得しました

2010年7月16日以降のご寄付に関しては、皆様が確定申告で寄付金を所得控除できるようになります。
また，神奈川県と横浜市の個人住民税からも控除となります。

★ボランティア募集！発送作業、イベント手伝いなど